

令和3年度全国高校生体験活動顕彰制度

「地域探求プログラム」オリエンテーション合宿 in 室戸



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探求する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを養う。

○ 実施期間

令和3年7月27日（火）～29日（木） 2泊3日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

高知県在住の高校生 9名／10名

○ 活動プログラム

27(火)			28(水)			29(木)						
			7:15	～								
						朝の集い	7:15	～				
			7:30	～								
						朝食	7:30	～				
9:00	～	9:50	9:30	安芸駅	9:00	～	9:50	フィールドワーク②	9:00	～	9:50	発表準備
10:00	～	10:50	10:40	室戸高校	10:00	～	10:50	①佐喜浜の自主防災組織に学ぶ 連携:市役所防災対策課(山中・竹本) 佐喜浜自主防災会 区長・副区長・植村さん(市役所OB)	10:00	～	10:50	発表・まとめ
11:15	～	11:50	ガイダンス・オリエンテーション 研修室1	11:00	～	11:50	移動:所バス	11:00	～	11:50	探究活動について 退所準備	
12:00	～	12:50	昼食(食堂)・休憩	12:00	～	12:50	昼食(弁当)場所:海浜センター	12:00	～	12:50	昼食:食堂	
13:00	～	13:50	自然の家出発 フィールドワーク①	13:00	～	13:50	フィールドワーク③					
14:00	～	14:50	1. 室戸岬ガイド 2. ジオパークセンター見学・解説 3. 津波避難シェルター見学	14:00	～	14:50	①室戸市の防災倉庫見学・解説 ②避難タワー見学・解説 ③避難路 ④救命艇					
15:00	～	15:50	連携 室戸ユネスコ世界ジオパーク 移動:所バス	15:00	～	15:50	連携:市役所防災対策課(山中・竹本)					
16:00	～	16:50		16:00	～	16:50	移動:所バス					
17:00	～	17:50	ゆうべの集い・夕食・休憩	17:00	～	17:50	ゆうべの集い・夕食・休憩					
18:00	～	18:50		18:00	～	18:50						
19:00	～	19:50	講義「室戸市の防災対策の現状と課題について」 講師:市役所防災対策課 山中・畑中 場所:研修室1	19:00	～	19:50	演習 まとめ 発表準備 場所:研修室1					
20:00	～	20:50	演習 避難生活のシミュレーションをしよう 場所:研修室1	20:00	～	20:50						

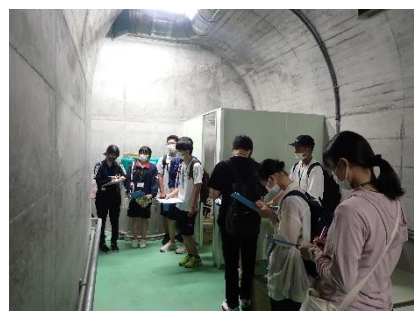
2. 活動の様子

< 1日目 >

個人参加型で高知県内すべての高校に募集をかけ、東は室戸市から西は四万十市まで、高知県内の4校から、1～3年生男女9名の参加で開催した。ガイダンスでは、所長より「探求のプロセス」

を学ぶことによって、新たな社会の担い手として自身の可能性を伸ばしてほしいと挨拶があった。

昼食後、室戸市観光ジオパーク推進課の協力のもと、室戸岬の現地見学、ジオパークセンターの見学と説明、世界に一つしかない津波避難シェルターを案内していただいた。室戸岬では、太平洋の荒波と、長い年月を得て形成された地形を五感で感じる事ができた。ジオパークセンターでは参加者それぞれの高校所在地の地形の特色と南海トラフ地震で予想される津波の浸水地域の地形図を見せていただいた。避難シェルターでは、備えている備品やトイレなど見学し、ジオパークセンターの職員から説明を受けた。夕食後、室戸市防災対策課の職員より「室戸市の防災対策の現状と課題」について講演いただき、質疑応答、その後、ワークショップとして防災倉庫に必要なものを話しあった。



< 2日目 >

2日目は、室戸市佐喜浜町の自主防災組織のご協力のもと、自主防災倉庫の見学・自主防災会の皆さんとの意見交換を行った。避難所生活の役割分担や備品台帳の管理など室戸市の中でも高い防災意識をもち、活動も盛んである組織であるにもかかわらず、避難訓練の参加率が低いこと、地域住民との連携が課題であることに参加者から驚きの声があがった。

午後からは、室戸市の防災倉庫と非難救命艇を見学した。食料と水の貯蓄が多いことや、オムツやゼリーなど、老若男女いろんな人に対応できるように準備していることに感心している様子うかがえた。

夕食後には、学んだことのまとめ・新たな気づきについて参加者の意見を共有する時間を設けた。9名が3つのグループに分かれ、明日の発表に向けて準備を行った。



< 3日目 >

3日目は、これまでのフィールドワークのまとめ・発表を行った。室戸青少年自然の家の職員も参加し、発表会と質疑応答の時間を設けた。「こうすればよいのではないか」「ここは改善の余地があるのではないか」高校生の視点から、あらたな課題・疑問がたくさん発表され、活発な意見交換

ができた。その後、担当からこれからの実践活動と報告書についての説明を行い、閉会とした。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・地元の知らないことが知れてよかった。
- ・効率よく、くわしく学ぶことができた。
- ・勉強になったし、他者の新しい考え方に触れることができてよかった。
- ・体験や見学を通して室戸について学ぶことができた。

○ 事業の成果

- ・初めての事業であったが、地域や関係機関（市役所防災対策課・室戸市観光ジオパーク推進課・佐喜浜自主防災組織）との連携ができたため、充実した取り組みとなった。事後アンケートより参加者9名の満足度は100%だった。
- ・オリエンテーション合宿後の実践活動への意欲を示したものが5名いた。残りの4名のうち3名は3年生であるため、進路との両立が困難であるという理由から、オリエンテーション合宿の目的はおおむね達成できたと考える。

○ 事業の課題

- ・日程について、2泊3日は厳しい。参加希望は11名であったが、コロナ禍における学校行事や部活動の大会の変更で、不参加を余儀なくされたものがいた。
- ・オリエンテーション合宿以降の実践活動については、個人参加型であるので、学校が開いている期間での活動が困難である。夏休み中に実践活動を行わなければ、活動報告ができない現状がある。
- ・本来は、参加者の課題や疑問に応じたフィールドワークを行うべきであると考えますが、それぞれが独自の活動を行うのは現実的ではないかと思う。自分で考え・行動することもこの事業の趣旨であると思われるが、オリエンテーション合宿では一つのテーマに絞るほうが参加者の理解を得やすいと感じた。